

品名	2011年度 (実績)		2012年度 (見込み)				2013年度 (見通し)		コメント			
	10億円	伸び率%	上半期 (実績)		下半期 (見込み)		10億円	伸び率%				
			伸び率%	伸び率%	伸び率%							
					2012年度				2013年度			
総額	69,700	+11.6%	35,389	+2.6%	34,621	▲1.7%	70,010	+0.4%	↑	70,791	+1.1%	
IM 01 食料品	5,948	+11.9%	2,953	▲3.3%	2,935	+1.4%	5,888	▲1.0%	↑	6,003	+2.0%	果実・野菜では輸入総額の増加は継続。とうもろこし、小麦は価格上昇により、下半期輸入総額が増加。
魚介類	1,393	+8.4%	707	+5.8%	672	▲7.4%	1,379	▲1.1%	→	1,366	▲0.9%	えびは、ベトナム、タイ産が病害により養殖数量減がみられることやインド産えびから酸化防止剤が検出された問題により、価格は上昇するも、供給量の減少により総額では減少。まぐろは、台湾産の輸入数量増加に伴い、価格低下。さけ・ますは、在庫調整中。価格は過剰感から低水準にとどまる。
肉類	1,080	+8.3%	536	▲2.2%	554	+4.2%	1,090	+0.9%	↑	1,108	+1.6%	豚肉は、4月以降輸入申告手続きの厳格化に伴い、上半期微減。下半期は横ばい。牛肉は、米国における飼料価格上昇の影響を受けて価格は上昇傾向。下半期の輸入数量は上半期並み。鶏肉は、国内在庫が積み上がっており、徐々に消化が進むものの価格の上昇ペースは遅い。
IM 02 原料品	5,209	+3.1%	2,401	▲12.0%	2,210	▲10.9%	4,611	▲11.5%	↑	4,730	+2.6%	下半期は、鉄鉱石が市況下落の影響で大きく落ち込むことを主因に減少。
鉄鉱石	1,752	+15.7%	764	▲14.4%	651	▲24.2%	1,415	▲19.2%	↑	1,450	+2.5%	下半期は、エコカー補助金の終了と中国での自動車生産減少に伴って鋼材需要が伸び悩み、鉄鉱石輸入も上半期並みにとどまる。価格は国際商品市況の下落が反映されることで上半期から大きく下落するため、総額では大きく落ち込む。
非鉄金属鉱	1,292	▲13.2%	667	▲2.3%	610	+0.2%	1,277	▲1.2%	↑	1,320	+3.3%	下半期は銅精錬各社にて複数の炉修が予定されているため、銅鉱の輸入量は減少。市況はおおむね上半期並みの水準で推移するが総額も低迷。
IM 03 鉱物性燃料	23,126	+27.5%	12,059	+10.0%	11,480	▲5.6%	23,539	+1.8%	→	23,368	▲0.7%	原油価格は11年度比下落を見込むものの、LNGの増加を主因に増加。
原油及び粗油	11,895	+21.9%	6,167	+8.3%	5,687	▲8.3%	11,854	▲0.3%	↓	11,683	▲1.4%	原油価格の下落を主因に前年度比微減。数量ベースでは、上半期は震災後の復興需要、原子力発電所停止による電力需要(石油火力発電用の生炭原油)を背景に、需要が回復し増加。下半期は、大飯原子力発電所の再稼働、世界経済の減速等を背景に需要減が見込まれ、減少を見込む。
石油製品	2,346	+37.4%	1,198	+5.1%	1,250	+3.6%	2,448	+4.4%	↓	2,420	▲1.1%	震災が発生した11年度と比較し、製油所の稼働再開により輸入数量は減少するものと見込まれたが、複数の製油所でのトラブル発生により、輸入数量は若干の増加を見込む。
LNG	5,402	+52.2%	3,026	+24.5%	2,968	▲0.1%	5,994	+11.0%	→	6,050	+0.9%	原子力発電所を取り巻く環境は12年度内に改善する見通しはなく、LNG輸入量は微増となる見通し。また原油価格も高止まりしていることから、輸入金額は6兆円の台に達する勢い。
LPG	928	+12.0%	487	+10.2%	451	▲7.1%	938	+1.1%	→	929	▲0.9%	輸入数量は、国内生産品(原油精製過程で石油製品として生産される)の供給減が見込まれるものの、通年で若干減少を見込む。生産活動の回復の遅れから工業・鉄鋼向け需要回復が遅れている。家庭用需要も通年で横ばい。
石炭	2,522	+11.5%	1,162	▲6.6%	1,106	▲13.4%	2,269	▲10.0%	→	2,250	▲0.8%	輸入数量は、火力発電の拡大や鉄鋼生産の下げ止まりを背景に、一般炭、原料炭ともに回復。一方、世界経済の減速や米国での天然ガスへの燃料転換に伴い、世界市場の需給バランスが軟化しており、輸入価格は大幅下落。このため、輸入金額は11年度比で1割減。
IM 04 化学製品	6,117	+11.9%	2,996	▲6.3%	3,077	+5.4%	6,073	▲0.7%	↑	6,338	+4.4%	震災後の輸入増は11年末までいったん一巡したが、円高や輸入品に対する抵抗感の低下等を背景に再び増加しつつある。ただし、加工組立メーカー拠点の海外移転等で国内需要は停滞しており、大幅な輸入増も考えにくい。医薬品の輸入は外国メーカーの製品を中心に増勢が続く見通し。
IM 05 原料別製品	6,012	+8.2%	2,798	▲11.9%	2,650	▲6.6%	5,448	▲9.4%	→	5,430	▲0.3%	12年度下半期は、自動車向けなどの国内需要が減少することや、11年の震災の影響で一部製品の在庫調整が続くことなどから減少。
鉄鋼	952	+17.3%	407	▲14.6%	410	▲13.7%	817	▲14.2%	↑	850	+4.0%	下半期は国内需要低迷を受け輸入数量の低迷が続き、価格もアジア市場の需給緩和を背景に下落するが、中国・韓国メーカーが輸出ドライブをかけていることを背景に、総額は上半期からは幾分増加。
非鉄金属	1,709	+2.1%	715	▲27.9%	660	▲8.0%	1,375	▲19.5%	↓	1,350	▲1.8%	下半期は、アルミは自動車向け需要の減少を受け減少。白金族は南アの労務問題の影響で価格は上昇するが、自動車・化学触媒向け需要の減少により輸入数量が減少することで、総額は減少が続く。非鉄金属全体でも減少。
織物用糸・繊維製品	730	+12.8%	359	▲4.4%	324	▲8.7%	683	▲6.5%	↓	663	▲3.0%	震災の影響により11年度に海外調達が増えたことの影響から、マイナスに。特に下半期には、流通段階での在庫調整も見込まれるため、減少ペースが加速へ。
非金属鉱物製品	569	+3.2%	290	+0.3%	282	+1.0%	572	+0.6%	→	572	+0.0%	下半期はガラス及び同製品が11年度並みで推移する。タイヤは価格上昇を背景に増加。
IM 06 一般機械	4,996	+2.0%	2,492	▲0.7%	2,500	+0.5%	4,992	▲0.1%	↑	5,070	+1.6%	電算機類については、景気減速に伴い法人需要が伸び悩んでいる他、スマートフォン市場の拡大がパソコン市場の縮小要因に。このため、下半期の新型OS効果や、プリンター等周辺機器の堅調な拡大を勘案しても、電算機類全体の輸入は減少。
電算機類(含周辺機器)	1,632	+3.9%	789	▲1.8%	827	▲0.2%	1,615	▲1.0%	↑	1,647	+2.0%	景気減速に伴い法人需要が伸び悩んでいる他、スマートフォン市場の拡大がパソコン市場の縮小要因に。このため、下半期の新型OS効果や、プリンター等周辺機器の堅調な拡大を勘案しても、電算機類全体の輸入は減少となる見通し。
IM 07 電気機器	8,032	▲2.1%	4,124	+5.7%	4,200	+1.6%	8,324	+3.6%	→	8,400	+0.9%	家電については、エコポイントの反動減があるが、スマートフォンの輸入増加により全体では増加。半導体等電子部品は、震災による生産停止やタイの洪水の影響により国内での電子部品生産が低迷していた11年度の反動もあり、上半期は11年度を上回る水準で推移。下半期もスマートフォン需要や新型OS発売による買い替え需要の発生により11年度を上回るものの、伸びは鈍化。
半導体等電子部品	1,722	▲17.7%	898	+3.3%	857	+0.5%	1,755	+2.0%	↓	1,738	▲1.0%	震災による生産停止やタイの洪水の影響により国内での電子部品生産が低迷した反動もあり、上半期は11年度を上回る水準で推移。下半期もスマートフォン需要や新型OS発売による買い替え需要の発生により11年度を上回るものの、伸びは鈍化。
IM 08 輸送用機器	1,890	+9.6%	1,163	+40.2%	1,184	+11.7%	2,347	+24.2%	↓	2,284	▲2.7%	自動車輸入の増加、LCC向け航空機輸入の増加で大幅増加。
自動車	782	+21.7%	453	+26.6%	493	+16.3%	946	+21.0%	↑	1,016	+7.4%	欧州メーカーによる販売強化や、日本メーカーがタイやインドネシアで生産する小型車の輸入増加で大幅増加。
航空機類	372	+3.5%	307	+135.4%	258	+6.6%	565	+51.6%	↓	348	▲38.4%	787およびLCC向けの機材(737、A320)の輸入増による。
IM 09 その他	8,370	+3.4%	4,403	+6.4%	4,385	+3.6%	8,788	+5.0%	↑	9,167	+4.3%	その他雑製品は、プラスチック製品、かん具、アクセサリー等が着実に増加。精密機器類は、計測機器や液晶関連はほぼ横ばいも、医療用機器やコンタクトレンズ等が伸長。その他は、照明器具は高水準継続。家具およびバッグ類やき物といった身の回り品も堅調。
衣類・同付属品	2,629	+9.6%	1,347	+0.5%	1,272	▲1.3%	2,619	▲0.4%	↑	2,767	+5.6%	11年度に急増した反動で減少に転じるが、減少幅は小幅にとどまる見込み。節電の動きが全国的に広がる中で、クールビズ・ウォームビズ関連商品や高機能下着の需要が底堅く推移し、輸入を下支え。また、中国からの輸入減の影響も、調達先の多様化によりおおむねカバー。
製品輸入	35,417	+4.3%	17,976	+1.3%	17,996	+1.8%	35,972	+1.6%	↑	36,689	+2.0%	51.4%(前年度比+0.6ポイント)
												51.8%(前年度比+0.4ポイント)

*金額は億円単位を四捨五入、2012年度上半期の実績は9割進捗ベース
*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している